



## 日本語と日本文学 第13号 : 表紙, 目次, 奥付

|     |   |
|-----|---|
| 雑誌名 | 日本語と日本文学  |
| 巻   | 13  |
| 発行年 | 1990-10-30  |
| URL | <a href="http://hdl.handle.net/2241/00161963">http://hdl.handle.net/2241/00161963</a> |

# 日本語と日本文学

## 第 13 号

---

『大鏡』兼通伝・兼家伝を読む …………… 桑原 博史……(1)

謡曲『姨捨』における老女と月と…………… 金 忠 永……(10)  
——本説の検討を通しての本曲の主題の解釈をめぐって——

<終了>の意味と自他の形態…………… 須賀 一好……(20)  
——他動詞形用法に接近した自動詞形用法の分析——

---

『譬え』による議論の修辞学的分析 …………… 香西 秀信…(左 1)

比喩の意味における喩辞と被喩辞の  
相互関係について…………… 李 徳 奉…(左 10)

場所的存在の表現をめぐって…………… 阿部 博幸…(左 23)  
——日・英・中の比較による‘場所的存在’と  
‘所有’‘所在’との関係——

---

平成 2 年 10 月

筑波大学国語国文学会

## 投稿規定

一、投稿論文は三十枚程度。

一、原稿〆切は毎年度、二月末日および八月末日。

一、原稿送り先

305 茨城県つくば市天王台一―一―

〒 筑波大学 文芸・言語学系事務室内

『日本語と日本文学』編集委員会

## 投稿案内

昭和六十一年総会で『日本語と日本文学』誌の年二回発行が決まりました。これは創刊当初に計画しました最小発行回数をようやく実現できたものであります。

これに従い、編集委員会では投稿規定を一部改め、二月末日および八月末日の二度締切を設けることにしました。論文の対象分野および枚数三十枚程度は従来通りとします。

なお、投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。

学会の顔ともいべき本誌の一層の充実は、強く願われるところです。学内外を問わず、広く会員の皆様の投稿を仰ぎ、さらなる発展を期したいと思ひます。

積極的に御協力下さいますようお願い申し上げます。

## 編集後記

『日本語と日本文学』第13号を皆様のお手元にお届けいたします。会員の皆様の御協力により年二回の刊行も二年目となり軌道に乗りはじめました。今後ますますの御協力をお願いいたします。

(芳賀 純)

平成二年十月二十日印刷  
平成二年十月三十日発行  
第13号

305 茨城県つくば市天王台

〒 筑波大学 文芸・言語学系内

編集・発行 筑波大学国語国文学会

代表者 平岡敏夫

発行所 (有) 笠間書院

101 東京都千代田区猿樂町二二五  
電話〇三(一九五)一三三(代)  
振替口座 東京 一五六〇〇二